

変わる日本の「暮らし」と「まち」

団地にブリュワリーができる！
新しい団地再生への道

福岡県宗像市 日の里団地
ハイブリッド型団地再生
宗像・日の里モデル(2020年・令和2年)

阿部民子

text by Tamiko Abe



illustration: Shigeyuki Sakata

個性あふれる味わいで、ますます人気のクラフトビール。最近では出来たてをその場で飲めるブリュワリーも急増中だ。そんなビールを団地に住みながら味わえるユニークな試みが、福岡県宗像市の日の里団地で進んでいる。

福岡市と北九州市のほぼ中間に位置する宗像市。昭和40年代から両市のベッドタウンとして発展してきた。なかでも最大の規模を誇るのが、JR東郷駅を最寄りとする日の里団地だ。

誕生から来年で50年。これまで

ぶ歴史を引き継ぎながら、次の50年につなげる事業を目指している。URの小川和朗が経緯を説明する。

「このプロジェクトが行われるのは、団地集約で生まれた10棟分の敷地です。2018年には、地域住民主体のワークショップが開かれ、その場で『多世代が集まるような交流拠点になってほしい』『緑豊かな場所にしてほしい』という声が上がりました。その思いを含んだ条件のもとで10棟のうち4棟を解体撤去し、6棟を残した形で譲受事業者を公募。今年の1月に譲渡先が決定しました」

譲渡先に決まったのは住友林業をはじめとするハウスメーカー、西部ガス、東邦レオなど10社からなる共同企業体だ。団地再生に取り組みURと持続可能なまちづくりを進める宗像市、共同企業体は、3月に「日の里地区まちづくりに関する連携協定」を締結。連携してのプロジェクトがスタートした。

このプロジェクトでは、敷地を「戸建てエリア」と「生活利便施設エリア」の2つに分けて開発が

も、団地活性化のための多彩な取り組みが行われてきた。ミクスドコミュニティの形成を促す「健康寿命サポート住宅」や「子育てしやすいお部屋」、生活支援アドバイザーの配置。さらに団地の農場「日の里ファーム」では住民が野菜を栽培したり、イベントなどで直売。コミュニティ形成や生きがいづくりに寄与しているという。冒頭のブリュワリーは、そうした取り組みを土台にした、新たな団地活性化・再生のチャレンジ。現地の取材をとおして、団地を管

進められている。「戸建てエリア」には、64戸のコミュニティ創発型「サトヤマ」住宅(分譲)を新築する。まるで里山で暮らすように、緑に囲まれた中に塀や垣根を設けない住宅が点在する予定だ。広々とした共有の庭を設けるのも特徴で、子どもたちが遊んだり、バーベキューなども楽しめる。オープンな環境で、コミュニティ形成を図るのがねらいだ。入居開始は22年4月頃を予定している。

一方、「生活利便施設エリア」では、6棟のうち1棟(48号棟)を残して丸ごとリノベーション。「さとづくり48」と名付けた住民交流拠点をつくる。棟内の30室には、地域の人が集まれるコミュニティカフェや大型家具もつくれるDIY工房、保育所のほか、冒頭のブリュワリーなどが入る予定になっている。

2つのエリアは、「さとづくり48」を媒介に、ゆるやかにつながるようにデザインされている。団地住民と戸建てに入居する新たな住民、さらには地域の住民が共に利用し、多世代交流促進の核となることが期待される。



日の里団地48号棟が生まれ変わる日は近い。

理するURと宗像市の新たな団地再生の狙いが見えてきた。

団地再生で人と地域を結ぶ

ブリュワリーがつくられるのは、今年から始まった「宗像・日の里モデル」と名付けられた団地再生

ブリュワリーの発案者である「さとづくり48」を管理・運営する東邦レオディレクターの吉田啓助さんに意図や目的を伺った。

「お酒は、コミュニティづくりの効果的なコンテンツです。なかでもクラフトビールは、フレーバーや味にオリジナリティを出せるので、日の里ならではのものがづくりができます。日の里のある宗像市は大麦の一大生産地でもあるし、イチゴのあまおうやイカ、ふぐ、刺身で食べられる穴子といった海産物など、美味しいものの宝庫。地元食材を使い、特産物に合うビールをつくれれば、地域のアピールにもなると思っただけです」

団地のブリュワリーは、地域の人どうしを結ぶだけでなく、域外からも人を呼び込み、地産地消にもつなげたいとの願いを込めた、再生の一つの特徴になっているのだ。

住み続けたいまちづくり

「今回プロジェクトが行われるのは駅から一番離れたエリアです。ここにファミリー層や若い方々が来ることで多世代の交流や人の動

きが生まれ、団地にぎわいが増すことを期待しています。そして、同じくURが管理する東郷駅に近い日の里一丁目団地も再生に取り組み、地区全体を活性化していきたい」とURの小川。

共にまちづくりに取り組む宗像市都市建設部の内田忠治都市再生課長は語る。

「インターネットの普及だけでなく、直近では新型コロナウイルスの感染拡大など社会環境が変化し、これからの住まいは暮らしを楽しむ場所へと変わってきているのではないのでしょうか。市としては宗像市に長く住み続けていただくために、URさんをはじめ、まちづくりのスペシャリストの皆さんのノウハウをいただきながら、住む人にとって魅力的な持続可能なまちをつくり、他地区のモデルにしたいと思っています」

来年のお花見に合わせてオープンを目指すブリュワリー。新生日の里に新たな花が咲く。

街に、ルネッサンス

UR 都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

【企画制作】新潮社